

2024 年 4 月高等教育自学考试

日本文学选读试题

课程代码:00612

1. 请考生按规定用笔将所有试题的答案涂、写在答题纸上。
2. 答题前,考生务必将自己的考试课程名称、姓名、准考证号用黑色字迹的签字笔或钢笔填写在答题纸规定的位置上。

选择题部分

注意事项:

每小题选出答案后,用 2B 铅笔把答题纸上对应题目的答案标号涂黑。如需改动,用橡皮擦干净后,再选涂其他答案标号。不能答在试题卷上。

一、次の文章を読んで、後の質問に答えなさい。(本大題共 10 小題, 毎小題 2 分, 共 20 分)

文章 I

いまは昔、竹取の翁といふもの有りけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの事に使ひけり。名をば、さかきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、(ア) ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。

1. 上の文はある作品からの抄録である。この作品のタイトルは () である。

- A. 『竹取物語』 B. 『宇津保物語』 C. 『落窪物語』 D. 『源氏物語』

2. この作品について、間違っているのは次の () である

- A. 日本に現存する最古の物語
B. 伝奇的要素と作り物的要素が織り重なった物語
C. 歌を中心としている
D. いつ、だれに書かれたかは不明

3. 「いまは昔」とは何の意味か、次の選択肢から選びなさい。

- A. 今ではもう昔のこと
- B. 昔から今までのこと
- C. 昔も今も
- D. 昔は昔、今は今

4. (ア) に入る最もよいものは次のどれか。

- A. 三寸
- B. 五寸
- C. 七寸
- D. 九寸

文章Ⅱ

道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思うころ、雨足が杉の密林を白く染めながら、すさまじい速さで麓から私を追って来た。

私は二十歳、高等学校の制帽をかぶり紺がすりの着物に袴をはき、学生カバンを肩にかけていた。一人伊豆の旅に出てから四日目のことだった。修善寺温泉に一夜泊まり、湯ヶ島温泉に二夜泊まり、そして朴歯の高下駄で天城を登って来たのだった。重なり合った山々や原生林や深い溪谷の秋に見ほれながらも、私は一つの期待に胸をときめかして道を急いでいるのだった。そのうちに大粒の雨が私を打ち始めた。折れ曲った急な坂道を駆け登った。ようやく峠の北口の茶屋に辿りついて(ア)すると同時に、私はその入口で立ちすくんでしまった。あまりに期待がみごとに的中したからである。そこに旅芸人の一行が休んでいたのだ。

5. 上の文章はある作品からの抄録である。この作品のタイトルは()である。

- A. 『伊豆の踊子』
- B. 『雪国』
- C. 『古都』
- D. 『千羽鶴』

6.この作品の作者は（ ）である。

- A. 森鷗外
- B. 夏目漱石
- C. 谷崎潤一郎
- D. 川端康成

7.「雨足」とは何の意味か、次の選択肢から選びなさい。

- A. 地に落ちる雨
- B. 雨が降りながら通り過ぎていくさま
- C. 降り注ぐ雨
- D. 静かに降る細い雨

8.「一つの期待」とは何の期待か、次の選択肢から選びなさい。

- A. 雨がはやくやんでほしい
- B. はやく温泉宿に着きたい
- C. はやく雨宿りのできるところに着きたい
- D. 旅芸人の一行に追いつきたい

9. (ア)に入る最もよいものは次のどれか。

- A. はっと
- B. むっと
- C. ほっと
- D. かつと

10.次の選択肢から正しくないのを一つ選びなさい。

- A. 作者は実体験をふまえてこの作品を書いた
- B. この作品では清純な恋愛感情と旅情が描かれた
- C. 作者は余裕派の代表的作家である
- D. 作品の中の「私」は息苦しい憂鬱に堪えきれないので旅に出たのである

非选择题部分

注意事项:

用黑色字迹的签字笔或钢笔将答案写在答题纸上,不能答在试题卷上。

二、次の文の下線漢字に振り仮名をつけなさい。(本大題共 10 小題, 毎小題 1 分, 共 10 分)

11. 文三の免職と聞いて世俗的な實際家の叔母お政は態度が豹変し、文三に辛く当たるようになる。()
12. 秀才の青年官吏は某省からベルリン留学へ派遣された。()
13. 旧めかしい町の光景が香の煙の中に包まれて見える。()
14. 何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いて居た事文は記憶して居る。()
15. 先生はその罪を近代人として持たざるを得ぬ罪悪感にまで深められ、ますます淋しくなる。()
16. この二・三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉かという災いが続いて起こった。()
17. 主人から暇を出され、途方にくれていたのである。()
18. 私は自分の性質が孤児根性で歪んでいると厳しい反省を重ね、その息苦しい憂鬱に堪えきれないで伊豆の旅に出る。()
19. 折れ曲った急な坂道を駆け登った。()
20. 一方、これは、己の詩業に半ば絶望したためでもある。()

三、次の文の下線平仮名の部分を漢字に直しなさい。(本大題共 10 小題, 毎小題 1 分, 共 10 分)

21. 役所の退庁時刻に、二人の青年が神田見附からすがたを現した。()
22. 貫一はお宮からのお詫びの手紙もかいふうしない。()

- 23.寺は信州下水内郡飯山町二十何ヵ寺の一つ、真宗にふぞくする古刹である。()
- 24.先生は遺書によってそのしょうがいを明らかにする。()
- 25.これらの小動物の死と自分の生死とを重ね合わせて、ぐうぜんに支配される生き物の寂しさを感じる。()
- 26.朝は晴れ、木の葉も地面もやねもきれいに洗われていた。()
- 27.栄叡と普照は、鑑真のけついの変わらないことに力を得て、二回目の渡日を試みた。()
- 28.僕はこの家の主人だし、僕は一種のせきにんしゃだ。()
- 29.僕が大学で知り合った緑は、両親が忙しく、中学高校を私立の女子校でいわかんを持ちながら送ったため、現実を対象化してみるようになる。()
- 30.親和感情に包まれつつ、二人は自分たちが危機を乗り越えたことをじっかんする。()

四、穴埋め。(本大題共 20 小題，每小題 2 分，共 40 分)

- 31.山上や海辺に男女が集まり、歌舞に興じて結婚相手を選んだ古代の風習を()
という。
- 32.万葉歌人の中で、家族を愛し、運命や社会の矛盾に激しい感情を向けたのは()
である。
- 33.紀貫之は女性に仮託し平仮名で書いた旅日記は『()』である。
- 34.日本中古最大の説話集は『()』である。
- 35.紀伝体で書かれ、道長の栄華に批判的な歴史物語は『()』である。
- 36.『枕草子』の作者は()である。

- 37.中世の世俗説話で、教訓性や啓蒙性が薄く、人間への関心と寛容が見られる文学性の豊かな作品は『()』である。
- 38.平氏一門の繁栄と源平の争乱による平氏滅亡の様子が描かれる作品は『()』である。
- 39.仮名草子から生まれ、上方を中心に行われた写實的風俗小説の総称を()という。
- 40.時代物『国姓爺合戦』や世話物『曾根崎心中』など多くの浄瑠璃脚本を書いた人は()である。
- 41.本居宣長は、その著『源氏物語玉の小櫛』で、物語の本質が()にあると主張したことは有名である。
- 42.自然主義の流れに対し、反自然主義の立場をとり、()派とも呼ばれたのは夏目漱石と森鷗外の二人である。
- 43.菊池寛は()賞と直木賞の二つを創設した。
- 44.『山月記』『李陵』を書いた作家は()である。
- 45.自然主義の出発となった作品は、島崎藤村の『()』と田山花袋の『蒲団』と言われている。
- 46.近代詩の第一次的樹立となった、『初恋』などを含む島崎藤村の第一詩集は『()』である。
- 47.正岡子規は和歌では『万葉集』を尊重し、浪漫的な『明星』派に対抗して、()的歌風をうちたてた。
- 48.『死者の奢』でデビューし、ノーベル文学賞を受賞した作家は()である。

49.透明な孤独感と現代的な口語文体が話題を呼び、空前のベストセラーとなった吉本バ
ナナのデビュー作は『()』である。

50.第三の新人の後の若い世代として、『点と線』の()や『雁の寺』の水上勉
らもたいへん人気があった。

五、次の内容を日本語で簡単に説明しなさい。(本大題共2小題, 毎小題5分, 共10分)

51. 余情

52. 新思潮派

六、次の文章を現代日本語に訳しなさい。(本大題10分)

53. 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅雙樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはす。おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。